



救急に対する理解と
認識を深めよう！

9月9日は「救急の日」です。救急医療と救急業務に対する正しい理解と認識を深めるために、この日を含む一週間を「救急医療週間」としています。

この機会に、かかりつけの医師の確認や救急車を呼ぶ前の応急手当など知っておきたい事項を職場や家庭で話し合いました。

救急車寄贈

(財)日本消防協会から最新型の救急車が寄贈され、8月25日山梨県知事から交付伝達を受け消防署へ配車されました。

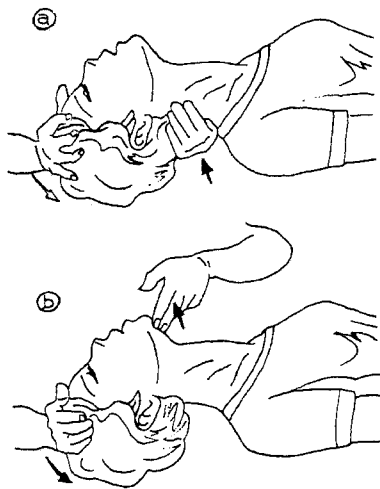
これにより、救急活動の機動力がより一層充実されました。

いざという時のためにおぼえておこう。 あなたにもできる心肺蘇生法

意識のないときは

気道確保

AIRWAY

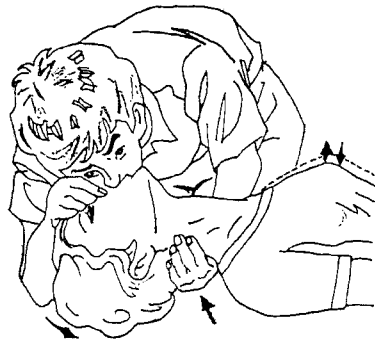


気道確保とは空気の入り出る通路を確保（開く）することであり、心肺蘇生法で最も大切なことである。②図…片方の手をひたいに、もう一方の手を後頭部に近いうなじにおいて頭を後方にそらせる。①図…片方の手をひたいに、もう一方の手の人さし指と中指を下あごの先の骨の部分に当てて、あごを持ち上げ頭を後方にそらせる。

呼吸をしていないときは

人工呼吸

BREATHING

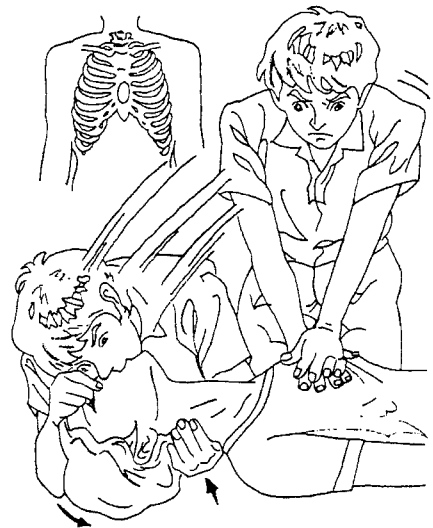


1. 気道を確保する。
2. 患者の鼻をつまむ。
3. 口を大きく開いて患者の口を覆い、息を吹き込む。
4. 胸が動くのを確かめながら、5秒に1回の割合でくり返す。
5. 幼児では口と鼻を同時に覆う。（気道確保を①図で行う場合もある）

脈が止まっているときは

心マッサージ

CIRCULATION



胸骨の下半分に両掌を重ねておき、体重を利用して、1分間80～100回くらいで胸骨を圧迫する。5回に1回人工呼吸を併用する。救助者が1人の場合は心マッサージ15回と人工呼吸2回を交互にくり返す。